

# 全国医学部長病院長会議 被災地医療支援委員会 支援状況報告 2016年6月

全国医学部長病院長会議会長 新井 一 順天堂大学学長

被災地医療支援委員会委員長 嘉山 孝正 全国医学部長病院長会議相談役

## これまでの委員会活動のまとめ

1. 全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会は平成23年4月15日に発足し、被災者健康支援連絡協議会の1組織として中心的な支援を行い、政策提言を行ってきた。
2. 熊本地震に対しては、発災直後の対応として九州地区の国立大学（国立大学医学部附属病院長会議）および私立大学の医学部・医科大学が中心となり医療支援（医師派遣・患者受け入れ）、物資（水・食料等）の支援を行った（資料1）。
3. 熊本大学の病院だけでなく、学部や研究施設の被害状況について調査を行い、既存研究の維持に必要な研究試料等の保管に関して文部科学省医学教育課大学病院支援室に支援の措置をお願いし（4月20日）、直ちに対応いただいた。
4. 熊本県医療救護調整本部本部長（熊本県災害医療コーディネーター）宛に、今後長期にわたる医師派遣等のニーズがある場合に、県として正式に要請いただければ可能な限り協力する旨の提案を行った（4月21日）。
5. 熊本大学医学部、医学部附属病院の現況調査と要望を取りまとめた（資料2、3）。
6. 東日本大震災に関しては、いわてこどもケアセンターへ、児童精神医学を専門とする医師の派遣を平成26年5月から開始し、平成28年3月までに19大学から67日間の支援を行った。引き続き平成28年9月まで、いわてこどもケアセンターへの支援を継続し、最終的には19大学82日間の支援となる予定（資料4）。

## \* 被災地医療支援委員会委員名簿（平成28年6月時点の委員）

地区	区分	氏名		専門領域・大学名
東北	国立	嘉山 孝正	委員長	山形大学医学部先進がん医学講座 特任教授(脳神経外科学)
東北	私立	酒井 明夫	委員	岩手医科大学(神経精神科学)副学長
東北	国立	八重樫伸生	委員	東北大学病院(産婦人科学)病院長
東北	国立	山下 英俊	委員	山形大学医学部(眼科学)医学部長
東北	公立	齋藤 清	委員	福島県立医科大学附属病院(脳神経外科)病院長
関東	国立	山本 修一	委員	千葉大学医学部附属病院(眼科学)病院長
関東	私立	小山 信彌	委員	東邦大学医学部(医療政策・渉外担当特任部門)特任教授
東海	国立	石黒 直樹	委員	名古屋大学医学部附属病院(整形外科)病院長
近畿	私立	奥野 清隆	委員	近畿大学医学部附属病院(下部消化管外科)病院長
中国	国立	井川 幹夫	委員	鳥根大学医学部附属病院(泌尿器科学)病院長
九州	国立	石橋 達朗	委員	九州大学病院(眼科学)病院長
九州	私立	志波 直人	委員	久留米大学病院(整形外科)病院長

被害状況等の報告について

九州国立ブロック(九州大学病院)

	大学名	人的被害	物的被害	熊本県からの患者受入	熊本大学病院への支援状況
1	九州大学	<p>熊本大学病院への支援に対し、国立大学附属病院長会議からの要請により、全国の国立大学附属病院からの支援において、九州大学病院が支援窓口を担っている(4/18～)。別紙添付</p> <p>→当面、近隣の九州地区の大学病院(私大含む)からの支援を行っている。 来週以降、中国・四国地区等への支援要請の拡大を図る予定。</p>			
		なし	なし	7名(4/19現在)	<p>4/16 飲料水 6,666ℓ</p> <p>4/18 職員用食料 3,600食 (ごはん、みそ汁、カップ麺等) 患者用給食 4,260食</p>
2	佐賀大学	なし	なし	25名(4/17現在)	<p>4/18 患者用給食 1,800食</p> <p>4/19 飲料水 3,612ℓ</p>
3	長崎大学	なし	なし	1名(4/19現在)	<p>4/19 飲料水 492ℓ</p> <p>職員用食料 1,500食(カレー、ビスコ等)</p>
4	熊本大学	?	多数 (建物に亀裂、 パソコン倒れる 井戸水× など)	多数	<p>ライフライン:電気○、ガス○、 水道×(水道4/19復旧)</p> <p>飲み水(井戸水)×→食材調達×のため 患者給食が作れない</p> <p>外来診療(4/18休診、4/19再開)</p>
5	大分大学	なし	なし	<p>熊本県からは0名</p> <p>大分県由布市被災により、由布市の医療機関から6名受入</p>	<p>(支援スタンバイ中)</p> <p>医療支援:由布市避難所での医療支援 (医師等多数)</p>
6	宮崎大学	なし	なし	9名(4/19現在)	<p>4/20(予定)</p> <p>飲料水 6,900ℓ</p> <p>職員用食料 1,100食(ごはん、パン缶)</p>
7	鹿児島大学	なし	なし	1名(4/17現在)	(支援スタンバイ中)
8	琉球大学	なし	なし	なし	(支援要請をしていない)
10	久留米大学	-	-	-	<p>4/18 飲料水 60ℓ</p> <p>職員用食料 1,000食(カレー、パン缶)</p>
患者受入 累計		49名		熊本大学病院への支援 累計	<p>飲料水:17,730ℓ</p> <p>患者給食:6,060食</p> <p>職員用食料:7,200食</p>

・その他 DMAT隊の出動は、すべての大学病院において、4/15以降ほぼ毎日出動しております。



## 熊本大学医学部附属病院の状況 (2016.6.13)

### ○医療の現況


1. 附属病院ではライフライン、診療機器（一部を除き）は復旧し、地震前とほぼ同じ状態で診療が行えている。倒壊の恐れがある熊本市民病院から大学に移送された患者さんも多くは転院・退院され、救急外来を受診する患者さんも地震前よりやや多い程度で落ち着いてきている。
2. 関連病院もほとんど従来の病院機能に復しているが、熊本市民病院は診療施設が使用できないという最終診断が下され、現在は損傷が軽微であった管理棟で外来診療のみが行われている。今後、2年後に移転再建が予定されているが、この間、これまで熊本市民病院が担っていた周産期医療、小児心臓外科については、大学病院のNICUの増床、小児心臓外科チームの大学病院への受け入れなどにより、その機能の一部を大学病院が代替することを計画している。
3. 被災地に対しては、熊本県知事の依頼で
  - 1) 被災地にある公的病院である阿蘇医療センターに対して、医師及び看護師等のチームを派遣して医療支援
  - 2) 益城地区災害医療コーディネーターの派遣、益城町保健・医療・福祉チーム支援のための医師派遣を行っている。

また、熊本地震緊急周産期医療対策プロジェクト（産科婦人科）による分娩施設調整、妊婦トリアージ、熊本地震血栓塞栓症予防プロジェクト（循環器内科）、神経難病相談窓口（神経内科）、熊本糖尿病支援チーム（糖尿病・代謝・内分泌内科、栄養管理室）、熊本 DPAT 活動への医師、臨床心理士の派遣（神経精神科）、熊本地震小児地域医療連絡会（小児科）など、各診療科で被災地住民に対する医療支援を行っている。

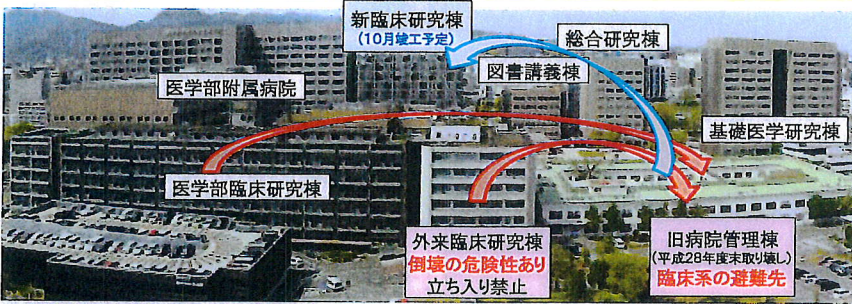
○国や他の医療関係の団体等に対する要望等

1. 建物間の連結部分の破損、天井壁の破損などの施設被害に対する修復費用：  
約1億2500万円
  - ・診療に重大な影響があるため、病院経費にて暫定的に仮修復を済ませているが、国からの補正予算による支援を要請している。
  
2. 附属病院の設備・備品の復興経費：約30件で約2000万円
  - ・国からの補正予算による支援を要請している。

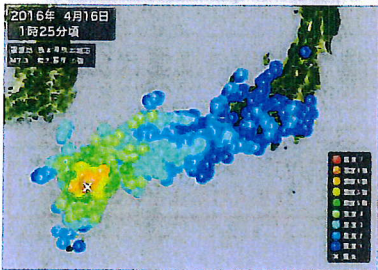
以上。

1 被災者健康支援連絡協議会 報告資料 平成28年6月20日  熊本大学  
Kumamoto University

《熊本大学医学部の震災被害状況と復興計画について》



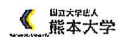
2016年 4月16日  
1時25分頃



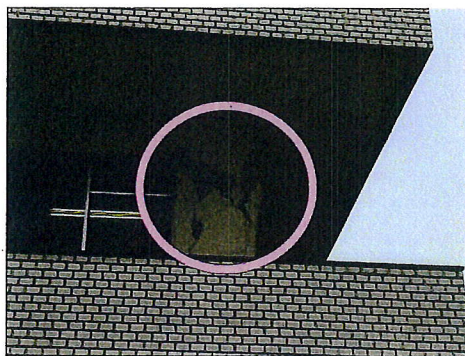
入院患者さん、学生および教職員について  
人的な被害は、ほとんどありませんでした。

熊本大学 大学院生命科学部 研究部長  
大学院医学教育部長、医学部長  
西村泰治

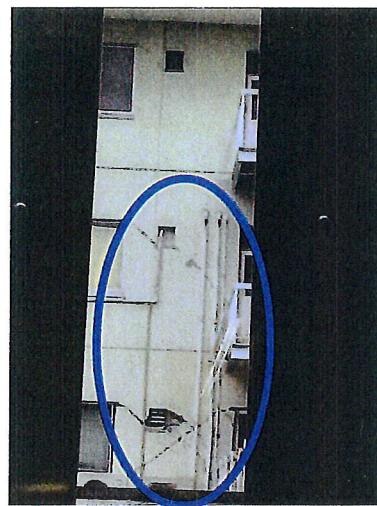
2 平成28年熊本地震 被災状況 (本荘北地区)



□ 外来臨床研究棟 (東)



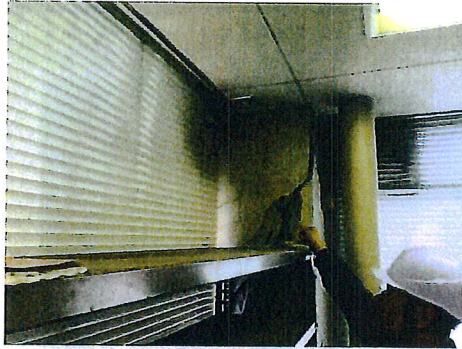
4階 北側柱の損傷状況



4・5・6階 北側壁の損傷状況



□ 外来臨床研究棟（東）



4階 北側柱の損傷状況(内部)



4・5・6階 北側壁の損傷状況(内部)

＜被災建築物応急危険度判定（平成28年4月22日実施）調査結果＞  
4階の柱について損傷度Ⅳ以上の柱が44%以上あることから、立ち入り禁止と判断された。

□ 医学部臨床研究棟



エレベーターの破損状況



医学部臨床研究棟～旧管理棟 渡り廊下  
エキスパンションジョイントの破損状況

医学部臨床研究棟



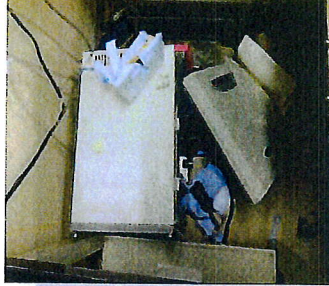
研究室の被災状況

基礎医学研究棟 10階（西）実験室

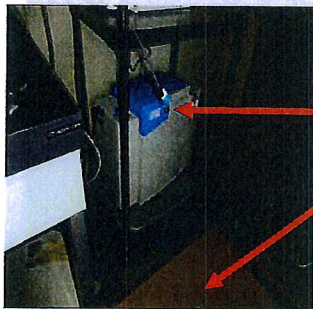




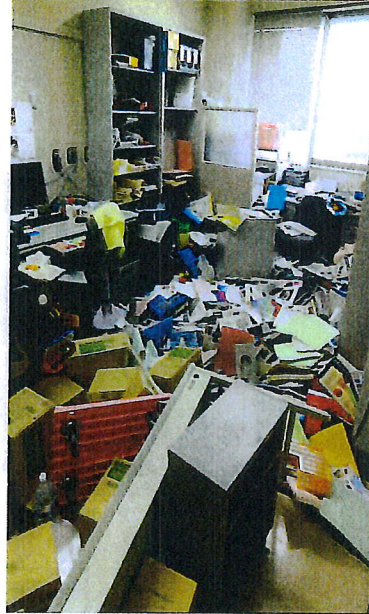
基礎医学研究棟 7階 (西) 実験室



CO<sub>2</sub>インキュベーターの  
転倒破損



超純水作成装置  
の破損と水漏れ

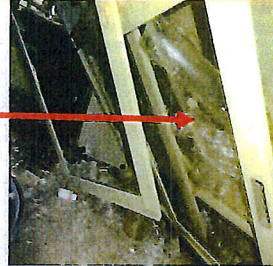


図書室  
の損壊

基礎医学研究棟 7階 (西) 実験室



冷蔵庫と  
ガラス器具入れの  
転倒



バイオリーダー  
(CHIP用機器)の  
転倒



医学部総合研究棟 4階（南）

核磁気共鳴 (NMR) 室(424号室)



医学部総合研究棟 5階（北）

質量分析室(512号室)



医学部総合研究棟 6階（北）

細胞培養実験室(604号室)



12

平成28年・熊本地震からの復興に向けて

熊本大学  
大学院生命科学研究部HPに  
掲載した震災復興メッセージ



平成28年4月14日ならびに16日に発生し、その後も頻りに余震が続いております。平成28年熊本地震に際しまして、被災されました多くの皆様方により早く、お見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。今回の震災に際しましては、本学に対しまして卒業生、在校生ならびにその御親族、その他多数の皆様方や、他の大学等の研究機関の皆様方より、多方面に渡って御支援を賜りましたことに、心より厚くお礼を申し上げます。

熊本大学医学部、薬学部、大学院医学、薬学、保健学教育部ならびに大学院生命科学研究部におきましても、大きな震災の被害を受けましたが、学部ならびに大学院の学生につきまして、震災後に全員の安全の確認が取れておりますことを、まずは御報告申し上げます。講義棟の安全確認も完了し、授業も5月9日より再開されます。

また大学院生命科学研究部の教職員についても、安全が確認されており、全力を凝集して復興に努めているところでございます。特に老朽化が進んでいる臨床医学研究棟につきましては、本年末には竣工する予定であります新棟への移転を前にして、大きな被害を受けており、多くの研究室が別の建物に緊急避難しているところでございます。研究設備につきましても、多くの高価かつ精密な研究機器に甚大な被害が生じておりまして、現在、被害状況の全貌の把握と復旧に向けた取組みを実施し、一日も早く研究環境を復興させ、優れた研究を遂行することを目指しております。また多くの日本人学生および留学生が、住居の破損等による震災から逃れ身の安全を確保するために、一時的に母国や県外に避難を余儀なくされております。これらの就学に支障を来たしている、学生への経済的な支援も重要な課題として、対策を立てつつあります。

このような教育・研究環境を越えるために熊本大学では、「熊本大学基金」の中に「熊本地震復興事業基金」を設置いたしまして、大学全体あるいは特定の部局・目的等に対しまして御寄付を募り、教育と研究の一日も早い復興に充てさせていただきますこと、お祈り申し上げます。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/akkin/fukkou/fukkou>  
（「熊本地震復興事業基金」で検索することにより簡単にアクセスできます。）

我々、生命科学研究部は、教職員の総力を結集して、復興に向けて全力で取り組んでおります!! 皆様方には何卒よろしく、御支援を賜りますことを、お願い申し上げます。

平成28年5月6日  
熊本大学大学院生命科学研究部長  
西村 泰治



## 熊本大学・地震復興事業基金の設置

熊本大学 医学部・医学科 への支援を要請

熊本大学  
Kumamoto University

Japanese English Chinese Korean

交通アクセス&キャンパスマップ お問い合わせ 所在地 問い合わせ カスタム検索

リンク  
入学希望の方 企業・研究者 地域・一般の 卒業生の方 在学生の方

ホーム 大学情報 教育 研究 社会連携 国際交流 入試案内 大学生活 キャリアサポート

同窓会 学部・大学院等

現在位置: ホーム

入試案内

- 進学説明会
- 資料請求
- デジタルパンフレット・動画
- 入試Q&A
- 高大連携

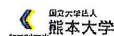
生涯学習

- 知のフロンティア講

①平成28年熊本地震に関するお知らせ

- 熊本地震復興事業基金の設置について
- 「平成28年熊本地震」に関する被害状況について（お知らせ）（5月30）

## 14 平成28年熊本地震 復興計画



### 緊急性を要する学生の就学支援ならびに研究環境の整備に関わる復興計画 (熊本大学基金以外による支援の要請)

1. 医学部・生命科学研究部で損壊した設備・備品の復興経費:  
約860件で約 20 億円について、国からの補正予算による支援を要請。
2. 被災した医学部・医学科学生への就学支援: 600万円  
1) 学生個人への経済的支援、2) 教育環境の復興支援  
医学部同窓会ならびに医学部医学科・後援会による支援を要請。
3. 被災した大学院留学生への就学支援: 600万円  
1) 生活費と転居費用の支援、2) 修了が遅れる4年生留学生への中期的な生活費支援  
肥後医育振興会による支援を要請。

## 中長期的な生命科学研究部における復興計画

ミッション再定義により、熊本大学医学系分野のミッションとして、「国際的な教育研究拠点機能を活かした発生医学、エイズ学研究や、生命資源の分野における研究を始めとする、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、医学の発展及び新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次世代を担う人材を育成する。」こと等を掲げている。

しかし、先般の熊本地震による被害により、その機能を十分に果たすことが困難となってきたため、今後は、プライオリティーを考慮した中長期的な対応が重要となってきた。

今後も引き続き、文部科学省への予算要望等を行っていくと同時に、自助努力での復興について精力的に、検討・実施していく予定である。



全国医学部長病院長会議

被災地医療支援委員会

いわてこどもケアセンター診療実績 (H26. 5. ~H28. 3.)

\* ( ) は、H28. 4~H28. 9までの予定数。

	日数
弘前大学	2
秋田大学 (県立医療養育センター)	6 (3)
山形大学	2 (3)
獨協医科大学	3 (3)
東京女子医科大学	1
慶応義塾大学	2
横浜市立大学	6
聖マリアンナ医科大学	2
名古屋大学	2
京都府立医科大学	4
大阪大学	1
大阪市立大学	3
近畿大学	9 (3)
奈良県立医科大学	3 (3)
広島大学	4
九州大学	5
産業医科大学	3
久留米大学	6
熊本大学	3
合計 : 19大学	67 (15)